

## 138. 近江八幡市白王町大中の湖西遺跡出土の異形石器

1

近江八幡市白王町地先の旧大中の湖湖底に存在する大中の湖西遺跡出土の異形石器について報告する。

2

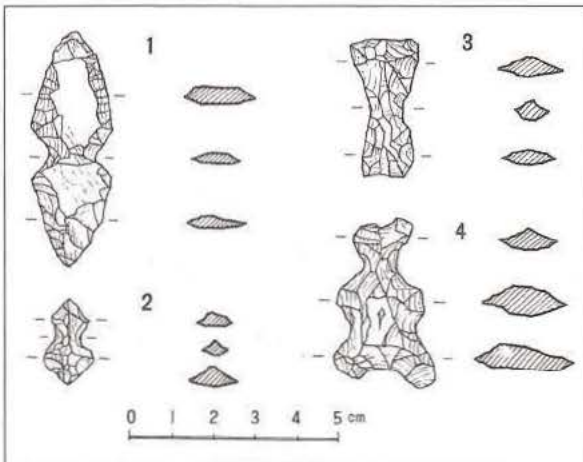
この遺跡の詳細については、未報告であるが、縄文早期～前期、後期にわたるものである。構成する土器の型式は、早期として楕円押形文、前期として木島式、北白川下層各式、大歳山式に加えて未確認型式（仮称大中の湖I式、II式）、後期としては初頭の中津式を主体とするものであり、目下、報告について取りまとめ中であるが、資料も豊富でなかなか、まとまらないのが、現状である。

3

ここに報告する異形石器について、その形状を説明すると（第2図参照）、

1、2は、2個の有柄石鎌を基部において結合した形態である。1は、全長5.6cm、最大幅2.0cm、くびれ部の幅1.1cmを有し、2については、全長2.1cm、最大幅1.2cm、くびれ部幅0.6cmとなっている。

3は、無柄の石鎌2個を先端において接続させた形態である。全長3.3cm、最大幅1.7cm、くびれ部幅0.8



第 2 図

cmを有している。

4は、あたかも人形の如き形式をとっており、全長4.1cm、最大幅2.4cmを有する。

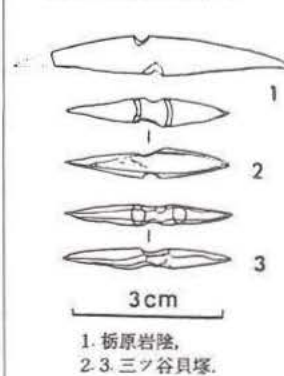
石質は、いずれもサメカイト製であるが、4については、表面の風化の度合いが強い。

4

異形石器については、従来出土例も少なく、種々なる推論が出され、容易に結着をみないのが、普通である。御多分にもれず、ここに紹介した石器も、その用途については、首をかしげるものである。

まず、1～3については、釣針の一種かとも思われる。ことに1、2については、渡辺誠、1972：縄文時代の漁業の中で、骨角製の釣針の分類中に、逆T字形釣針として紹介されているのに近似している。しかし、この型式の釣針については、全国で2遺跡3例のみの報告である。本遺物をもって、直ちに、これと結び付けるのは、冒険の感がある（第3図参照）。3については、

逆T字形釣針実測図



1. 栃原岩陸、  
2. 3. 三ツ谷貝塚。

第 3 図



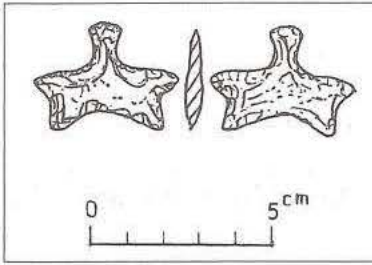
第 1 図 X…異形石器出土地点

ては、表面の風化の度合いが強い。

岡山県磯の森貝塚出土石器中に、同型式のものが認められる。以上の3点については、一応釣針としての用途を設定してもよいが、現段階では、未だ不明の点が多く、今後の類例をまつべきである。

4については、あるいは、護符とも考えられるが、『倉敷考古館研究集報第7号』1971：里木貝塚の報告の中で、第4図に示した石

匙があり、これとの類似も考えられるが、この遺物は、図示の如く、厚さも薄く、明らかに石匙としての用途も認められる。しかし、本品もこれにならって、一種の削器としての機能を持たせることも考えられるが、厚さ等の点より、若干の疑問が残るものである。



第 4 図

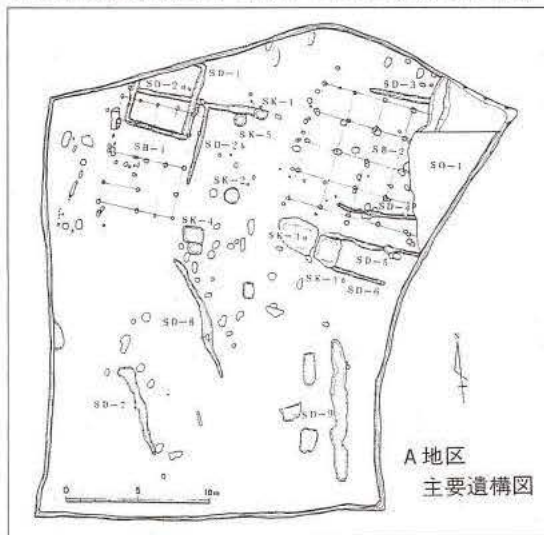
以上、本遺跡出土の異形石器について、筆者の考え方を述べたが、いずれも現段階にては、万人の首肯する説明は見出せない。本遺物に対する大方の御意見をまつものである。(佐藤宗男)

## 139. 野洲町北桜南遺跡

### 出土の土師器釜について

北桜地域のほ場整備事業に先立つ発掘調査は、昭和55年以降継続的に実施されており、昨年度(昭和59年度)の調査は、第6次調査にあたる。第6次調査についてはすでに概要報告を明らかにしているが、<sup>(1)</sup>時間的な制約などにより、詳細に触れることのできなかつた資料について、今回誌面をおかりして紹介したい。

紹介する資料は、第6次調査A地区SK-1出土の一括遺物である。SK-1は、掘立柱建物SB-1の区画溝と思われるSD-2aの東側延長上に位置する、土壇状の遺構である。土壇内の土層は、大きく三層に



A地区  
主要遺構図

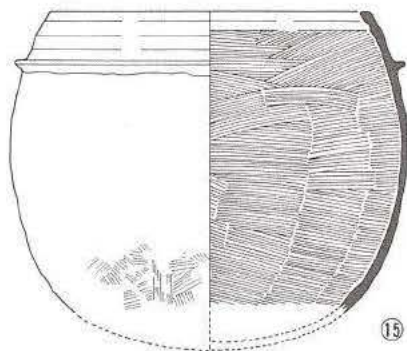
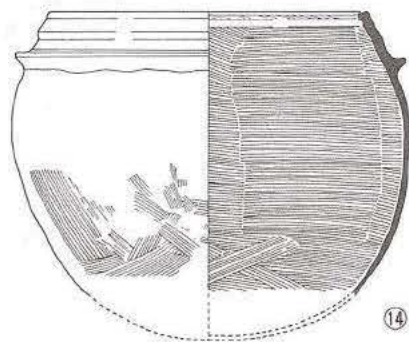
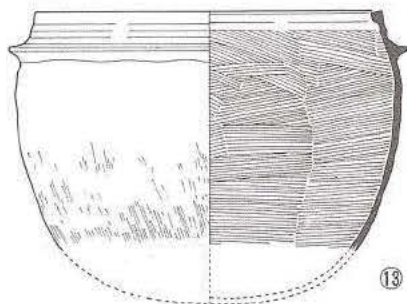
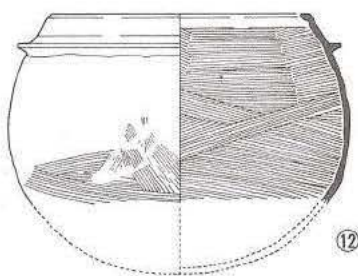
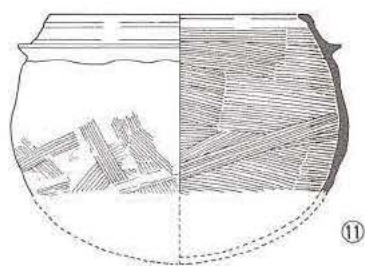
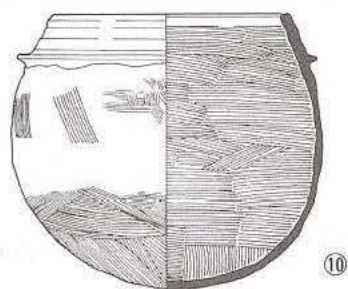
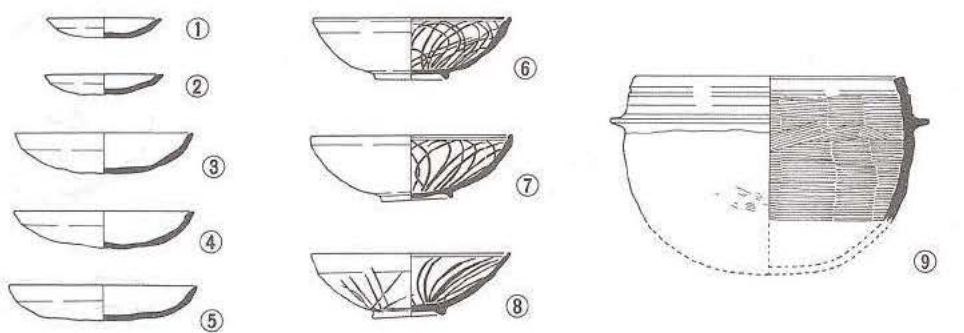
分層されるが、遺物は各層から密に出土しており、上層と下層の出土遺物が接合することから、一括性を有する土器群として捉えることが可能である。

出土遺物には、土師器小皿、大皿、黒色土器碗、土師器釜などがあるが、とくに土師器釜が多数出土しており注目される。作図可能な土師器釜は20点弱を数えるが、このうち比較的残りが良く、器形の全容を知りうることのできる7点を今回図示した。

出土した土師器釜には、口径が20cm前後に集中する一群と、25cm前後に集中する一群との大小二群が認められる。形態的な特徴としては、球形に近い体部と、内傾する口縁部を有し、肩部には幅の狭い鐙が貼付けされる。手法的な特徴としては、口縁部外面および口縁端部の内外面はヨコナデされ、体部外面は、上半が部分的にハケ調整、下半はラフにハケ調整される。内面は口縁端部付近まで密にハケ調整が施される。また口縁部内端付近には、口縁端部の平坦面を作り出す際の指圧痕が凹面となって残り、帯状に口縁内端を巡っている。肩部の鐙は粘土紐を貼付けて成形されるが、接合痕は上端がヨコナデされ消し去られているのに対し、下端はそのまま残されている。胎土は三種程度に分類可能で、色調は明黄褐色を呈するものが多い。これらの土師器釜は、相伴する土師器や黒色土器の年代観から、およそ平安時代末頃(12世紀後半)のものとして捉えることができよう。

次に、これらの土師器釜が、器種構成において占める位置を検討したい。A地区の調査では、SK-1以外にも掘立柱建物など多数の遺構が検出されている。これらの遺構群は、比較的短時期に存続したものとして捉えられ、また出土遺物にも顕著な時期幅は認められない。したがって、A地区で検出された集落における模式的な器種構成を復原することが十分可能である。復原される器種構成としては、土師器小皿・大皿、脚台付皿、碗、黒色土器小皿、碗、若干の磁器、在地産の瓦器などがあるが、煮沸形態としては、SK-1出土の土師器釜に代表される単一器種のみが認められる。煮沸形態におけるこのような傾向が、他集落においても認められるかについては、良好な比較資料が現状では少ないこともあり、今後検討の余地を残している。

土師器釜を含む土釜については、畿内では菅原正明氏によって、各地域における地域色と編年の研究が進められており、その実態が次第に明らかにされつつある。畿内周辺部に位置する近江では、良好な資料の報告が少ないこともあり、近江における地域色を明確にするにはいたっていない。このような中、本例は、近江在地産の土師器釜として捉えられる一群であり、今後その位置付けが問題となろう。(森 隆)



SK-1 出土遺物

- ①・② 土師器小皿      ⑥～⑧ 黑色土器碗  
 ③～⑤ 土師器大皿      ⑩～⑮ 土師器釜



註

- (1) 森隆「北桜南遺跡」(『昭和59年度野洲町内遺跡群発掘調査概要』) 野洲町教育委員会 1985
- (2) 野洲町内においては、本例以外に器種構成を検討できる12世紀代の出土資料は少ないが、13世紀代の集落として捉えられる北桜東遺跡、大篠原街道遺跡、常楽寺遺跡などの出土資料と比べると、後者においては土師器釜の瓦質化、器種の多様化などの傾向が看取される。
- (3) 菅原正明「畿内における土釜の製作と流通」(『文化財論叢—奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集』) 1983

## 140. 土器片を利用した 紡錘車の製作

1

大中の湖南遺跡の出土品中に、無孔および半穿孔の土器片を利用した円板があり、紡錘車を製作する過程にあるものと思われる。

2

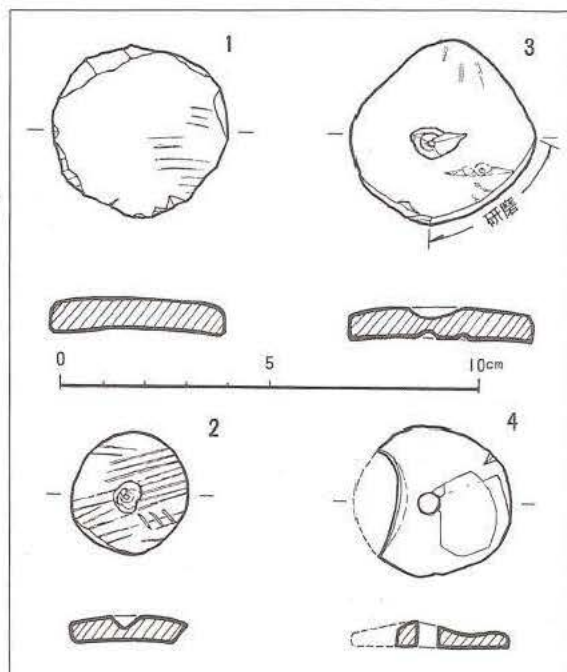
法量および外見 (単位: mm)

番号	長径	短径	厚さ	備考
1	42.3	42.2	7.3	
2	30.0	28.4	5.9	
3	45.0	44.4	7.6	隅丸四角形
4	38.0	36.8	6.5	長径、厚さは推定

ただし、4については、当初より紡錘車として製作されたものであるので、参考として併記する。

3

図示の1より3の遺物についてみると、1は、土器片を調整(周囲より荒割り)した段階であり、穿孔直前の様相を示している。2および3については、穿孔途中のものである。3については、周辺の一部を研磨によって調整している。又、裏面からも穿孔がなされ



ている。

この3個の遺物より考えると、土器片を利用して、紡錘車を製作するに当たっては、

1. 土器片を周辺より荒割りすることによって、概略の円板を削出する。

2. 穿孔にとりかかる。多分両面より穿孔し、貫通した後に、穴繰りをして、直径の同じ穴を得る。

3. 最後に、周囲の調整を行って、目的の紡錘車を得る。しかし、この段階は、2を見る限り省略される場合も考えられる。何となれば、周囲における多少の凹凸は、紡錘車の使用上あまり障害にならないものと思われる。

4

ここに、土器片を利用した紡錘車の製作の実例を紹介したが、他の遺跡においても、同様な遺物が発見される可能性があると思われる。

なお、時期については、畿内Ⅲ～Ⅳ様式あたりではないかと思う。(佐藤宗男)

番号	色 調		調 整		穿 孔 状 態		そ の 他
	表 面	裏 面	表面	裏面	表 面	裏 面	
1	淡灰黒色	淡黄褐色	ハケ	ハケ			一部にスス付着、鉄錆付着
2	淡黒褐色	黒褐色	クシ	クシ	長径 9.0mm × 短径 7.0mm 深さ 3.0mm 円錐形		
3	淡黄褐色	淡灰黒色	ハケ	ナデ	長径 13.0mm × 短径 7.0mm 深さ 3.5mm 円錐形	径 6.0mm 深 1.5mm 円錐形 径 4.0mm 深 1.0mm 円錐形	
4	淡黄褐色	淡黄褐色	不明	不明	径 5.0mm 貫通		鉄錆付着、一部欠損および剥離